六月定例会の主な内容

第五回（六月）定例会は、六月五日に招集され、六月二十六日までの二十二日間にわたり開催しました。

この議会では、平成二十四年度補正予算議案等二十七件と議員提出議案四件を審議し、いずれも原案のとおり議決しました。

また、二十人の議員によって一般質問が行われ、活発な議論が交わされました。

この議会の主な内容を紹介します。

一般質問

消防の広域化に対する認識は　伊藤　正彦

問　消防の広域化について、①八市八町で組織する駿東伊豆地区消防救急広域化研究協議会から、三島市、裾野市、長泉町の二市一町が離脱した理由と、そのことに対する本市の認識は。②二市一町の離脱による影響は。

答　①八市八町の枠組みでの広域化では、三島市、裾野市、長泉町としてはメリットを見出せないとのことから各市町の判断で離脱したものである。広域化については、三島市、裾野市、長泉町、清水町から本市を含め三市二町で広域化をしてはどうかという打診もあったが、本市としては、伊豆を含めた地域全体の消防力・救急力を見直すべきとの観点から、八市八町の枠組みでの広域化を目指すべきと判断し、協議をしたが、理解を得られなかったことは、大変残念である。②消防の広域化は、組織が大きいほどスケールメリットはあると認識しているが、現在進めている駿東伊豆地区との五市七町の広域化であっても、さまざまな行財政上のスケールメリットが生まれ、住民サービスが向上するものと考えている。また、二市一町の離脱による応援体制への影響についても、消防の相互応援体制は引き続き維持されることから、災害等の対応に影響はないものと認識している。

愛鷹ＰＡへのアクセス道路の安全対策を　江本　浩二

問　愛鷹パーキングエリアへのスマートインターチェンジの設置に伴い、アクセス道路の交通量が増加することで、周辺住民の安全の確保等が懸念されるが、①アクセス道路における安全対策は。②周辺生活道路への流入車両対策は。

答　①アクセス道路の整備については、本年度実施する測量調査や設計を踏まえ、住宅地においては、縁石やガードレール等を設置し、歩車道を分離したいと考えている。②流入車両対策としては、交差部における看板の設置や、大型車両の進入を防ぐ車線分離標などの設置を検討していく。

▲スマートインターチェンジの設置が予定されている愛鷹パーキングエリア

沼津高架ＰＩプロジェクトに対する認識は　山崎　勝子

問　沼津高架ＰＩプロジェクトについて、県が行うＰＩ実施計画は、鉄道高架化をしない場合も想定したものであると認識しているが、本計画に対し、市は、鉄道高架を前提とした議論がされているという態度をとっている。県と市の考え方の違いに対する認識は。

答　県が平成二十三年六月に公表した沼津駅付近鉄道高架事業推進方針では、沼津駅付近鉄道高架事業は、鉄道貨物駅の移転を含め着実に推進していくと示されており、市のこれまでの方針と一致している。現在、県はこの推進方針に基づいてＰＩを実施しているものと認識している。